

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 5月 3日

所属・職名	基盤教育機構・教授	氏名	行名則子
研究課題	日本人学生への「文章表現」・「日本語表現」と留学生への「日本語教育」の相互応用		
研究キーワード	Extensive reading Graded readers トップダウン処理 ボトムアップ処理	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>①一語一語を読解して意味を積み上げていくボトムアップ処理と、さまざまな既有知識を利用して意味内容を類推するトップダウン処理が情報処理能力を身につけていく上で必要であることは、外国語を学ぶ上でよく言われることである。この考え方を日本語母語話者の授業聞き取りにも応用することを実施した。そもそも複数の人間が交互に話している「対話」よりも、話し手が聴き手に一方的に話す「独話」の方が聞き取りが難しいといわれている。聞き取れない語彙や聞き逃した語彙にこだわらずに、まずはトップダウン処理に集中してもらい、再説明時に学生が理解していないかもしれないと考えられる語彙や慣用表現などをボトムアップ処理してもらうような授業を用意した。</p> <p>こうした留学生の日本語学習に使用される学習方法を、日本語母語話者の授業に応用した結果「聞き取れなかった」「何を言っているかわからない」といった学生が減少した。</p> <p>②留学生の読解力を上げるために Extensive reading を行うことがあるが、これを日本語母語話者の学生にも試みた。日本語母語話者が日本語の Graded readers を選択することはなかなか難しい。なぜなら興味の方向と読解の練習とが必ずしも一致しないからである。レベル別の教材そのものが少ないので、教材の適切な提示は、準備不足だったと言わざるを得ない。</p> <p>Graded readers はさまざまな読み手の日本語レベルに対応できるものでなければならない。すなわちテキストの中で使用される語彙や文法事項の難易によって段階別に分けられていることが必要になる。このことは必ずしも内容の浅薄とリンクしていない。レベル別に厳密に分けられた Graded readers のラインアップは日本語を学修する留学生だけでなく、日本語ができていると信じている日本語母語話者にも重要なものになる。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 学会発表や論文、著書執筆は特になし。</p> <p>3. 主な経費 初年度なので、経費の過半はパソコンと周辺機器に使用した。残金は言語教育研究関連の文献を購入した。また実験実践の事例研究の多い学会関係の費用に使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） 特になし</p>			

(本文は1ページ以内にまとめること)